

佐賀町河岸通り

隅田川に沿って、永代橋から清洲橋までの通りが佐賀町河岸です。またこの通りは赤穂浪士引き揚げの道でもあります。

元禄15年、本所吉良邸で討ち入り後、この道から永代橋を渡り、高輪泉岳寺に向かったといわれています。永代橋近くにある乳熊屋（現ちくま味噌）で休息した一行に甘酒をふるまい、労をねぎらったという由来の碑があります。

「昔は飼料や肥料問屋が軒を連ねる、佐賀一番河岸通りと呼ばれていたようです」佐賀町会の桑畑喬彦町会長宅のビルからは隅田川が見渡せます。

谷崎潤一郎作『刺青』の主人公清吉も佐賀町の隅田川沿いにある



2階居住まいでした。明治末期、永代橋とともに「永代亭」という西洋料理屋があり、当時の文学者芸術家、歌人たちの会「パンの会」が開かれていました。

また佐賀町河岸通りには油堀川に下之橋、中之堀川に中之橋、仙台堀川には上之橋が架かっています。上之橋の跡地には親柱4本を保存、その由来の碑があります。佐賀2丁目の横丁には本殿・拝殿のある立派な「佐賀稲荷」があります。平成8年社殿を修復の時「佐賀稲荷と佐賀町」の碑が建てられました。佐賀町の誕生から明

治以降、正米市場がたち繁栄した町の歴史が記されています。

境内には倉庫業で働く人たちの余技として生まれ、伝承されている「深川の力持ち」の力石、明治初期の米問屋の米仲間が寄進した鉄製天水桶が現存しています。

街路樹のポプラ並木が続く通りは、今でも会社や倉庫がほとんどを占めています。住民は減少し、小学生は20人たらず。「子ども神輿が出せない」そうです。近代的なビルや木戸のある古い建物も残り、江戸から東京への歴史散歩におすすめて。